

道 -ROAD-

大阪学芸中等教育学校
校長室だより

伝え方にはレシピがある

5年生のヨーロッパ方面への海外修学旅行(10/16~24)と3年生のオーストラリア方面への海外研修旅行(10/27~11/2)が無事終了しました。それぞれの学年とも気持ちを切り替えて学校生活を送っています。11月20日(火)に本校の伝統行事である「コーラスコンクール」が住吉区民センターで開催されます。本番に向けてクラスの練習も盛り上がってきています。大切なのは、やらされるという姿勢ではなく自分たちで頑張ろうという気持ちではないでしょうか。当日は、目標としている「クラスの団結」する姿と「心がひとつになった合唱」を披露してくれることを願っています。

6年生は希望する進路の獲得に向け、正念場を迎えています。今までで最大の試練かも知りませんが、これを乗り越えることが皆さんの人間の幅をひと回り大きくします。東館入口横に後輩からのメッセージ「**ファイトだ6年生!**」が掲示されています。周りの多くの人々が応援しています。頑張ってください。

さて、読書の秋なので、私が最近読んだ本を紹介します。コピーライター佐々木圭一さんのベストセラーになった『伝え方が9割』という本です。シリーズの続編や漫画も出版されています。タイトルの通り、同じことを伝えるにもその伝え方で大きく変わるという内容です。**伝え方には技術があり、共通のルールがある**。そして、料理のようにレシピがあると述べられています。

“No.1 にならなくてもいい もともと特別な Only one”これはSMAPの「世界に一つだけの花」の歌詞ですが、この曲が大ヒットしたのはこのフレーズに惹きつけられた人が多かったからではないでしょうか。これら心に残る言葉に共通の法則があり、なかでも感動を生みやすいのが「ギャップ法」です。もう一つ具体例は、世界中を感動の渦に巻き込んだオバマ大統領の就任演説“これは私の勝利ではない。あなたの勝利だ”というセリフです。この二つには共通点があります。どちらも、言葉の最初が「No.1 にならなくてもいい」「私の勝利ではない」とマイナスの印象から与えることから始まり、最後に「特別な Only one」「あなたの勝利だ」など、強いエネルギーを与える言葉で一気に気持ちを上げる。そのギャップが感動につながるポイントです。

「ノー」を「イエス」に変えるには、3つのステップがある。①**自分の頭の中をそのまま言葉にしない**②**相手の頭の中を想像する**③**相手のメリットと一致する願いをつくる**です。

確かに自分本位ではなく、相手のことを考えたお願いなので、「イエス」を導きやすいと思います。具体的な例文で、いいなと思ったのは次の2つの言葉です。

海外出張帰りに満席の飛行機が着陸し、乗客が慌ただしく降りようとする機内で聞いたアナウンスです。「後方のお客さま、お時間がかかってしまうので、ごゆっくりお支度ください。」この言葉だと気を使ってもらっている感じになります。これまでは「後方のお客さま、前のお客さまが出られるまで、お席でお待ちください。」とアナウンスしていたそうです。

もう一つ、ハンバーガーショップでの店員の言葉です。客が注文すると「4分ほどお時間がかかりますが」では、帰ってしまう人もいます。しかし、「できたてをご用意しますので、4分ほどお待ちいただけますか」という客にとってのメリットを盛り込むことで、相手の行動を変えることができるということです。

内容の一部を紹介しましたが、伝え方のコツの一つは常に「**相手の事を考えて話す**」ことです。インターネットの普及等により情報が膨れ上がる世の中で、言葉の力を高めることは大切ではないでしょうか。